

小学校統合プラン説明会会議録

と き 平成23年7月21日午後7時30分～午後9時20分

ところ 以西地区公民館

出席者 地区民男性25人、女性15人 計40名

石前委員長・高塚委員・進委員・前畑委員・永田教育長・生田課長・藤村課長・田中課長
浅田補佐・谷本補佐・高力係長・谷岡係長

開会 生田課長

あいさつ 石前委員長

統合プラン説明 永田教育長

資料により説明させていただき、皆様とともにこの問題を考えていきたいと思う。

別紙資料により説明。

財政推計について生田課長説明

質問・意見交換

○ 町づくり委員会、行財政改革審議会はどのような方々が集まって協議検討し、提言したのか。

地域から学校が無くなると、地域が寂れて、若者が住みづらい、住みたくない、そうなるとますます地域から子供が少なくなって悪循環になるのではないかと。安易に統廃合をやってしまうと、行政問題の解決にならないのではないかと。定住化、少子化対策をもっと力をいれてやってほしい。

以西小学校では公民館や地区住民のお世話になりながら、地域の方々との触れ合いも非常に多い学校である。小学校が無くなってしまうと、そういった地域の方々との触れ合いや繋がりも薄れてしまうと感じる。

今日説明されたプランは決定事項なのか、それともこれから幅広く住民の方の意見を取り入れて、再度見直すのか。準備委員会はどのようなメンバー構成を予定しているのか。

● 町づくり委員会のことについて、これは公募で委員を募って、「町づくり」ということが発端の委員会である。その話の過程の中で、小学校の子供たちが少なくなるということで、小学校の統合のこともあわせて検討してもらったという事が始まりだと聞いている。

● これは決まった事なのかということについて、教育委員会では、今の子供たちの実体を見て、教育面から統合は大事であるということと1年間かけて検討して、プランとして提案した。教育委員会としてはベストプランと思っているが、永年地域の中核的役割を担ってきた学校が無くなる。そこから子供たちの活動もそこから見えなくなると、余計に地域が過疎化してくるのではないかと、確かにそういう点が危惧される。一方、子供たちは今のままで良いのか、5年後10年後を見据えたときにどうなるのかということとを予想し、今、手を打っておく必要があるだろうということと提案させてもらった。意見をもらい良い方法があればその方向でいきたい。要は子供にとってどんな環境が良いのか、皆さんの中で意見を交わしてもらえたらありがたい。

準備委員会の設置内容については検討中である。以西、成美、安田で一つの準備委員会、また、東伯と古布庄で一つの準備委員会を作ってもらい、そして一つの町でまとめた準備委員会等でお互いに情報交換などをしながら進めていけたらと思う。

町づくり委員会や行財政改革審議会、あるいは議会の行財政改革特別調査委員会というようなことで、行財政が付いているから財政問題が絡んでいるのではないかと確かに受取られているところが往々にしてあると思うが、ひとつ資料を出させてもらおうと

——資料で全県下の統合の取組状況資料により、財政面よりも教育面が統合の主たる検討課題であることを説明する——

統合の最終的な決定はということについて、設置問題については教育委員会で方針は決めるが、予算や設置条例は町長提案、議会議決が必要である。

○ それではまだ未決定ということか。

● 教育委員会としては、これがベストのプランだと思っている。もらった意見を集約し、最終的にはどうするかという事になろうかと思う。

○ さきほど児童数減少の説明があった。かなり人数が減ることについての対策は、何も教育委員会としては考えていないのかというのが一点。答申は中学校区1校の目標を32年としていた。最終的に各中学校区に1校ずつを目標にしているのであれば、26年にこだわらず、もう少し検討して1回で1校にする方法はどうか。小学校の先生の方に適正規模に関するアンケートが行われたようだが、どうしてそのようなアンケートをとったのか。

● 教育委員会がアンケートというか先生の意見を聞いたのは、小学校適正規模配置審議会の時、学校の先生はいろんな学校を経験しているので、規模によってどんなことが学習指導面・学校運営面等からどんな成果と課題が考えられるのか、いろんな意見をもらって、3年ほど前に審議会の方へ資料提供をした。

答申の32年度1校という考えを教育委員会は持っていない。それは今1校ずつにすると、500人規模から400人規模の学校が出来るためである。そうしたときに教育委員会としては、あまり小さい学校もいけないし、また大きな学校も望ましくないという具合に考えている。喫緊の課題である一学級の人数が非常に少なくなっている学校の統合ということでプランを出している。また次の統合を考える時には、小学校の問題だけでなく中学校問題も一緒に考える必要がある。

人数が少なくなるのに何も対策をしていないのかということであるが、定住問題、企業誘致というのは琴浦町をはじめ、どこの市町村でもやっている。ただ、具体的な成果が見られないのも残念である。どこの市町村でもやっているにもかかわらず小子化の問題が大きくクローズアップされてきている。喫緊の課題である子供たちの教育課題をどう解決していくかということが、教育委員会なり、それに関わっている皆に課せられたお互いの課題ではないかということである。

○ 先ほど500人規模になるということだが、赤碕中学校区だけで考えれば、そのような規模にはならない。

● たしかに、500人規模、400人規模と言ったのは、現在1年生から6年生合わせて988人いる。そうして見たときに500人程度、400人程度と言ったところで、赤碕中学校区は500人に

ならないからということだけでなく、町全体でどうするかといった視点も大事である。今ある校舎を使いながら課題を解決し、この問題に立ち向かっていこうということで、プランとして投げかけさせてもらった。

○ 以西小学校は、家庭数32の小さな学校である。保護者のあらゆる面での参加率はほぼ100%という点では誇りを持っている。その中では十分議論も保障して教育内容を作り上げるという点では貢献しているのではないかと思っている。いわゆる学力、単なる点数だとかいう意味ではなくて、生きる力、活力、将来の社会を作り上げる力そういう意味であるが、その学力というものが以西小学校でどれほど達成されているのか。担任の先生から聞いたり、いろんな所から聞いた中では、以西小学校はまあまあ頑張っていると自負している。その学力はどういった所から身につくかというと考えて見ると、たとえば学習習慣の定着、生活習慣が出来ている。それは先ほどから言っている「みんなでがんばろうや」と言ってPTA総会や懇談会で、保護者の参加体制のあり方も大きく貢献しているのではないかと思っている。

教育委員会のプランの中には、小規模校の課題として、切磋琢磨、競争心、向上心という事があるが、私にはあまり不満は無い。なにか問題にあつたら、先生方、保護者も含めて上手く対処して、保護者同士で話をして解決してきたということがある。統合しても小規模校であるが、何十人のクラスに投げ込まれると、他校の懇談会等の参加率のデータはわからないが、そのあたり不安である。あるべき姿は、以西小学校の我々が保護者と先生と一緒に作り上げてきた活力ある学校であると思う。そういう意味でどれだけ本当に人材を育てることに、この26年からの合併が貢献するかというのは、保護者としては大変不安である。切磋琢磨の話が出たがそれは理念だと思う。具体的にはそれについての議論は、委員会の中では行われていると思うが、保護者は自校の様子はわかるが、他校の様子は全くわからない。だから不安がある。あのときの決定でより悪くなったと言えないようにしてほしい。本当に将来を作っていく活力ある人材を育ていくことを大事に議論してほしい。まとめたら、こういうことを中心に保護者は思っている。

○ そのように不安の無い中でのプランの推進、私ども納得の上で進んでいくことを強く要望する。地域の行事等もおそらく同じ状況がある。そのような事を納得したうえでの統合であってほしいし、そうでなければ納得できないということが、私どもではありえると思っている。

○ 昨年の9月議会だったが、そこで町長が「答申を重んじる、尊重する」ということで、出発されたのがこのプランだと思うが、財政、教育面、それから地域ということが非常に小学校を統合するときには大切な3点かと思う。今の話で言うと、財政はまったく関係ないということではないか。

● 今、22年と26年を比較すると、財政的に有利、不利とか、そういう問題はあまり無いと思っている。長い目で見て、大規模な補修とかいろいろな問題が出てくれば、ある面プラスになると思う。関係が無いと言われると、はいとは言えないが。財政面云々ではなくて、子供たちの置かれている環境をどうするかということである。

○ 私は、お金がないという理由がひとつはあると思うので、そこをはっきりしたい。あと、説明にあった普通交付税が1億2千8百万、使われるほうは少ないようだが、その差額はどこに行っているのか。

● 交付税の算定は非常に複雑で、実際にその額がいくら入ってくるのは正確にはわからない。説明は学校管理費と振興費の直接経費で説明したが、建築費とか事務費とか間接的なものもある。

○ 複式の解消に499万の負担がいるということだが、以前勤めていた町では、町が直接雇用して解消をしていたが、そう言う方法はどうか。

● いわゆる町講師、その先生方も教員免許があれば授業も出来るが、担任は持てないということで、琴浦町は県へ負担金を払って複式解消をしている。

○ このプランには、地域との係わりが触れられていないが、そのあたりの考えはあるか。最初は委員会等の財政面での提言。今度は適正規模審議会の答申。ところが、その答申さえも、あやふやになって来ている。答申の目標は何だったか。12学級以上の学校が目標だった。そこからすべて答申は書かれている。その経過措置としてのことが、プランとして提案されている。それを引き出して、複式、少人数はいけない、ほんとにいけないのか。

教育委員4名の方、地域から学校が無くなる。どんな思いでこのプランを立てられたか。一人ずつ思いを言ってほしい。

●教育委員会が話しているのは、今やっている以西小学校教育、地域との係わりを否定しているわけではなく、統合しても継続してほしい。

複式学級はなぜ悪いかという点だが、複式学級に課題があるからPTAの皆さんが解消してほしいと要望が出て、議会の了解を得ながら、今取り組んでいる。

審議会の答申というのは、非常に大きな課題を進めるに当たって、いろんな方の意見を聞くということで審議会から答申をもらった。その答申を受け教育委員会で1年間、協議検討し、本日プランを提案したところである。

● 以西小学校は、すごく保護者と子供と先生と繋がっていると思っている。その繋がり、授業での取り組みを、以西だけのものではなく、もっと広く皆に伝えてほしいと思っている。先ほどの13ページのところに、「保護者間の人間関係も薄くなりがちである」と言うところがあるが、確かに大きくなってくると、他の人がやられると言うことは確かにあると思う。先ほどの方が、「以西ではそんなことは無い」といわれた。それを琴浦全体に繋げていただきたい。確かに無くなるのは寂しくなると思う。本当に皆で育ててもらいたいと言う思いはしっかりある。

● 数人の学級で、本当にその子が、将来、どういう子になるのかということとは心配している。以西で子供を大事にしているが、それが成美に行っても以西の子供には違いないので。以西で大事にしていることを継続してほしいと思っている。

● 私は教育委員になって6年間、小学校、中学校を年に2回は見ている。以西小学校はとても素晴らしい学校で、もちろん過小規模校である古布庄もとってもいい学校である。他の学校は悪いかと言うと、決してそんなことはない。成美小学校も赤碕小学校も、まあペーパーテストの点でいっても、かなり良いところに皆いつている。何が問題かというときに、私が一番感じるのは、以西は本当に数が少ない中で、先生方と一体になって授業をされている姿は微笑ましいが、学校の持つダイナミズム、これに尽きると思う。そういうことが、学校にとって必要であると思うので、今度の統合については、こういう案がいいのではないかと私自身は思っている。

● 昨年10月から教育委員をしている。計画訪問でいろいろの学校を見て、本当に以西小学校も古布庄小学校も、地域も保護者も先生も、本当に一生懸命でとっても良い学校だと思っている。ただ反面、体育の授業などを見ていて、ドッジボールが出来るわけでもなく、他の隣のクラスと一緒にするが、ある程度の人数がいないとドッジボールも出来ないのか。それから音楽にしても発表会で、すごく感動したが、同じ学年でパートに分かれてという事が出来ないのか。結局、そうしたこともやらせてやりたいと思う。ある程度の人数が必要なのではないかなと思っている。

● 他にありませんか。時間も予定を少し過ぎて、今日のところはこれで終了します。皆さんの貴重なご意見、本当にありがとうございました。